
オレガナム

えみりあ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オレガナム

【Nコード】

N2092N

【作者名】

えみりあ

【あらすじ】

貴方の要望を何でも叶える組織「オレガナム」。望まれば、貴方の恋人にでも、妹にでも、はたまたメイドにまで。そして、貴方が御希望なら「傭兵」にだろうと、「スパイ」にだってなります。「オレガナム」の花言葉らしく、貴方の苦痛を除きます。

貴方がお望みなら

「それで、君達はこの状況をどうにかできると言っのか!？」

冷静さに欠いた男は、その女に向かって言った。

「私達は、あくまで人間です。でも、『不可能』を『可能』に変えることはできますわ。」

「本当か!？必ずだな!!」

「必ずとはお約束できませんが、あの子に任せれば何とかしましょう。」

でも、とその女は続けた。

「今回は少々高くつきますわよ。それでもよろしくて?」

「ああ。いくらでも出そう!この状況を打開できるのならばな!!」

形の良い唇をが三日月形をした。

「おまかせあれ。」

真っ赤な色した唇は、妖しく輝いていた。

新しい依頼

「それで、今日はどんな内容？」

愛らしい顔をした女は、やすりで爪を研いでいる。

「それ、止めてちょうだい。私、その匂い嫌いなもの。」

「わかったわよ、デルフィニウム。」

爪やすりをテーブルに投げ捨てた。

「ここではデルフィニウムって呼ばない約束でしょう、ビバーナム」
「

「そうだったわね、『ボス』。」

わざとらしく「ボス」という言葉を大きめに言ったのは、ビバーナムと呼ばれた少女。

「で、今日はどんな内容？」

「これよ。」

テーブルに投げ出された赤色のファイル。

「担当No.1」という文字がやけに目立つ。

ファイルを開き、何ページかめくる。

「ふん。今回はボディガード役？」

「違うわ。歌姫のバックダンサーよ。」

ボスと呼ばれたその女は、自分が座っていた席から立ち上がり、バーナムの隣に腰かけた。

「彼女、性質の悪いファンから狙われているの。だから、今回は貴方が陰ながら彼女を守るのよ。バックダンサーなら、彼女と一緒にいてもファンはおかしく思わないし、狙われたその場にいれる可能性がとても高いの。ね、やってくれるでしょう？」

ファイルを見ていた彼女の目は、ボスへと視線を移した。

「当たり前でしょう。こんなスリリングなこと、やらなきゃ損だわ」

そう言っただけの彼女の目は、純粹に「楽しさ」を追いかける無垢な少女のようだった。

「ちょうどよかったわ、ビバーナム、貴女幼い頃からダンスを習っていて。貴女が一番適任だわ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2092n/>

オレガナム

2010年10月10日21時44分発行